

# 文芸OGネットワーク通信



Vol. 18

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1 共立女子大学文芸メディア研究室内  
文芸OGネットワーク 代表 稲見 和子 Tel/Fax 03-3237-2681  
発行：2013.3.23 URL www.kyoritsu-wu.ac.jp/bungei

## 共立祭参加 — OGネットは「ハムレット」を展示 —

2012年度の共立祭は、10月20日と21日の両日にわたって開かれ、OGネットも参加した。

今回のテーマは「翔～じゃんぷ～」。若い学生さんへのエールではあるが、平成25年度には創立10周年を迎えるOGネットの新たな飛翔への後押しにもなるテーマであった。

OGネットの会場は本館310号室。メインの展示テーマは「ハムレット」。割り当てられた会場は比較的広く、劇芸術資料整理室の資料の中から、上演ポスターやパンフレットなど、盛りだくさんの資料を展示することができ、卒業生が制作したグローブ座の古い模型が飾られて、興味深く見ていく来観者も多かった。

他に文芸サロン講座、在校生支援、劇芸術資料整理などの活動状況を年表やパネルなどで展示し、会報のバックナンバーを添えた。会員の有志が品物を提供してくれたバザーと、茶菓を用意した団欒のテーブルは今年も賑わいを呈していた。

### ■■■ 「ハムレット展」について

OGネットが整理に携わっている劇芸術研究室所蔵の演劇資料を一般に公開するのは4回目である。膨大な量の資料から今回は、学生になじみ深いと思われるシェイクスピアの「ハムレット」をとりあげた。芥川比呂志の躍動感あふれるハムレット（文学座、1956）の舞台から、蜷川幸雄演出の「ハムレット」（2012、さいたまネクストシアター）まで、ポスター10枚、プログラム45冊、ちらし22枚がならべられ、戦後（1945年～）の「ハムレット」および「ハムレット」に依拠して書かれた戯曲の上演まで網羅した展示となった。

「ハムレット上演史」の史料では、「ハムレット」に依拠して書かれた作品、たとえば「ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ」、

堤春恵の「仮名手本ハムレット」、あるいはミュージカル化された「ハムレット」などが同列にならべられているが、厳密に言えば、これらは「ハムレット」とは別個の作品である。「ハムレット」上演史と「ハムレット」に依拠して書かれた作品の上演史を別の範疇で展示することにより、シェイクスピアの「ハムレット」に内在する複雑な魅力が時代を超え、文化の違いを飛び越えて、新しい戯曲の形で再創造された姿を提示する試みとなった。

この「ハムレット展」にぜひ展示



したかったのが、シェイクスピア時代の劇場「グローブ座」を復元した模型である。これは1962（昭和37）年文芸学部英文学コースの学生が、造形芸術コースの故友部直教授の指導のもとに制作し、その年の大学祭に出品したものである。OGネットのメンバーも制作にかかわっており、英文学研究室に大切に保存されていた50年前の作品である。「これが幻の模型ですわね」とおっしゃって見にきてくださった先生もおられた。

学内外の先生方、また卒業生の方々にも展示資料をご提供いただきました。厚くお礼申し上げます。

多田久恵（S45院卒）

## 在校生支援から

### 昨年 11 月 22 日 (木)、今年度 2 回目となる “シューカツ” トークイベント開催

今回は、「メディア業界って、実際どんな仕事しているの?」をテーマに、木村福夫氏 (映像会社社長・元 TBS プロデューサー) と伊藤尚彦氏 (フリーランス・グラフィックデザイナー) をゲストに迎え、ふだん外からは見えにくいメディア業界の仕事内容やその魅力について語っていただいた。進行役は、ご自身も出版社を経営している OG ネットの窪田智子さん。

今回は、平日の夕方スタートということで、参加者は 15 名というこぢんまりした会ではあったが、その分、学生さん一人一人の考えを聞くことができ、私たち OG にとっては、「現在の厳しいシューカツ事情」にじかに触れ得る貴重な機会ともなった。

今後は、在校生はもちろん、近々の卒業生などにもリサーチをかけ、「共立生が望むシューカツ・サポート」に一步でも近づけるよう取り組んでいきたい。

高橋京子 (H1 卒)



## 劇芸術資料室から



劇芸術は、難しく近寄りがたいと思っておりましたのに、資料整理の一人になって一年半近くになりました。またたく間のような気持ちがあります。

きっかけは、総会で「資料整理の仲間になりませんか?」との、お誘いでした。知識がないからと諦めかけたのですが、どうしても気になってしまうのです。見学だけさせていただくつもりで、ドアをノックしてみました。エプロン姿の皆様が、生き生きとしたお顔で一所懸命に整理をなさっていました。そのお姿がとてもステキで、このようなシニアにあやかりたいと思い、すぐに入れていただきました。

初めは、戸惑うことばかりでしたが、皆様に支えていただき、続けることができました。チラシやプログラムの細かい字の年号を探し、揃える作業は、とても根気がいることがわかりました。このような素晴らしい皆様に出会えたことを、心から感謝しております。

藤田喜久子 (S43 卒)

### 《 広場 》

- 5 月 8 日から 6 月 15 日に、劇芸術研究室主催により、本館ホールにおいて「テネシー・ウィリアムズ」展が開催される。展示に向けて、OG ネットでは、劇芸術資料整理室の資料の中から関連資料 (ポスター、冊子、プログラム、チラシなど) を検索し、提供の準備を進めている。
- 今年創立 10 周年を迎える OG ネットは、現在、記念誌の発行と、記念品の配布を計画している。2 月 9 日には記念誌への掲載のため、設立時を知るメンバーによる座談会を行った。



座談会の様子

## 連載 私の学生時代 — 文芸学部で学んだ日々 ④ —

今回は、長年プロボウラーとしてご活躍の藤原清子さん（2期生）に書いていただいた。  
在学中の学外活動の思い出や、プロボウラーになるまでの経緯などについて語っていただいた。

高校3年の夏、高校総体の軟式テニスの福井県代表として初上京、その時大学は東京と決め、共立（文芸学部英文コース）へ入学しました。4年間の大学生活を振り返ると、たくさんの楽しかった思い出がよみがえってまいります。

在学中はテニス部に所属していました。先輩と共にテニスの全日本や東日本選手権大会等に遠征、特に会津若松での全日本の大会後、各大学の選手男女合わせて30名程で裏磐梯めぐりをしたバス観光は忘れられない思い出です。また、伊香保等の修学旅行、今は亡き富原芳彰先生とご一緒にグループで楽しんだ箱根の旅等々、昨日のことのように思い出されます。

でも、私にとって一番の出来事は4年生の6月…

その年の春にミスユニバースの県代表に選ばれた所以なのか、小さい頃から踊ることが大好きで体育の時間に桜井キヨ先生のダンスのお相手をさせられたのが一因なのか、6月22日に丸の内の郵船ビルで中央大学と共立のサークルが合同で開いたダンスパーティーに招待されました。

その会場で出会ったのが中央大学の学生だった主人でした。そして、卒業の1年後、謝恩会の会場だった赤坂プリンスホテルで挙式、間もなく54年になります。



昭和29年 東日本選手権大会開会式（上田市）



昭和33年 修学旅行

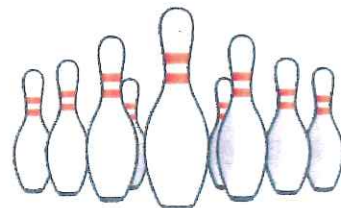
実は、私は43年間プロボウラーをやっています。息子3歳、娘1歳の時出会ったボウリングがいつしか趣味を通り越していました。私がボウリングを始めて4年後、プロ協会に女子プロが発足しました。腕試しのつもりで受けたテストに合格し、1期生（13名）に仲間入りしました。

全国を飛び廻るほどの異常なブームの5年後、オイルショック等による業界低迷期の折、同期の須田開代子プロと女子ボウラーの団体（JLBC）を設立、19年後に須田プロ亡き後、やはり同期の中山律子プロを会長に迎えました。現在私は会の運営に携わる傍らプロボウラーとして投げたり教えたりと元気に動き廻っております。

大学4年間に経験した部活をはじめ修学旅行の思い出、そして可愛がって頂いた富原先生、外山弥生先生、桜井キヨ先生との出会い、今も続く友人達との友情、それら全てがどんな時にも前向きに頑張れる私のエネルギー源となっている気がしております。

藤原清子（旧姓：甚田）（S33卒）

（写真は藤原清子さん提供）



## サークル探訪

# 文芸制作サークル文士会

共立祭で、ひとときわ興味をそそられるサークルがあった。今回は、文士会の活動を紹介したいと思う。2000年に発足し、創作に当たっている。文士会というと、地味なイメージがあるが、メンバーに会ってみて、私の思いは変わった。文士とは、小説、詩、イラストを書く者をさし、それぞれの得意分野を活かしながら、明るく創作に励んでいる。毎年テーマを2つ決め、作品を書く。テーマは部員達で決めているそうだ。今年のテーマは、“うた”と“未来”。

出版物は、部員の作品を載せた『無声音』とその批評等を載せた『大甘露』の2種類を年2回発行している。ゆえに、『無声音』と『大甘露』を合わせて読むと、とてもおもしろい。

創作に関しては、厳しい制約はなく、自由に楽しく書いていく。レイアウト、製本もすべて自分達で行う。また、個々の部員がそれぞれの世界を持っているので、内容がマンアックにならない(偏り過ぎない)ように、部長の平山穂奈美さんがチェックを入れる。創作は、個人であることが多いので、普段の活動は、毎週火曜日に大学内の教室で打ち合わせをするのみである。

また、批評会等を行う際は、皆集まって、それぞれの思いを自由に話し合えるアットホームなサークルである。

共立祭では、部員達の好きな作品の書評が展示されていたので、興味深く読ませていただいた。『無声音』のほかに、合同誌、さらに昨年は、3人が個人的に新刊を出している。

その人気は、共立祭で売り切れになるほどである。2冊の定期刊行物のほかに、『事次第』という小冊子がある。その初代編集者が「我々は文士である。ゆえに、刊行物やそれにかかわる活動を文章によって伝える」と記している。それを、皆しっかりと実行しているようだ。



共立祭での書評の展示

### 掲示板

#### \*\*\* 総会のお知らせ \*\*\*

総会 日時:6月1日(土) 10:00~11:00

会場:本館にて (部屋は未定)

祝賀会 総会終了後、10周年記念祝賀会を開催します。

時間:11:30(受付開始)~14:30

会場:レストラン アラスカ パレスサイド店

(パレスサイドビル9階)

#### \*\*\* 講演会へのお誘い \*\*\*

6月29日(土)に「信州が生んだ教育者—鳩山春子の目指したもの—」と題する講演会(共立女子大学・櫻友会共催)が長野県松本市で開催されます。

講演者は小松芳郎氏(松本市文書館館長)。時間は13:30~15:00で、キッセイ文化ホールで行われます。参加費無料。

参加ご希望の方は(社)共立女子大学櫻友会 Tel.03-3237-2791/  
Fax.03-3261-4130にお問い合わせください。

文芸制作サークル

### 編集後記

50年ぶりに姿を現した「グループ座」の復元模型に先輩方の学びへの意気込みが感じられた。時は移り人は変わっても、大学という場には学ぶ心がある。母校とのご縁、会員同士のつながりを10周年の節目に改めて確認したいと思う。

原稿をお寄せくださった方々、構成をお手伝いくださった方、ありがとうございました。

(E)